

(令和3年10月04日)

< ワンポイントレッスン (理論・基礎知識) >

(移動平均線・その1)

移動平均線は、株価分析ではマーケット全体や個別銘柄に適用される基本指標です。このコーナーでは、移動平均線について断片的に取り上げて来ましたが、少し体系立てシリーズで説明しておきたいと思います。①. グランビルの8法則、②. 移動平均線からの乖離率、③. ゴールデン・クロス&デッドクロス、④. 短期・中期・長期の移動平均線、⑤. 移動平均の応用 (指数平滑移動平均線) =MACD について、今回はその1 <グランビルの8法則> です。

<グランビルの8法則>

(買い局面)

- ①. 移動平均線が下降の後、横バイか上昇している時に、株価がその移動平均線を上に突き抜けた場合、**重要な買い信号**。
- ②. 上昇中の移動平均線を株価が下回っても、移動平均線の上昇に変化がない時は、**押し目買い**。
- ③. 株価が上昇する移動平均線の上であって、平均線に向かって下降し、平均線を割り込まずに再び上昇した場合は、**買い乗せ**。
- ④. 平均線が下降中でも、株価が異常にかけ離れて下落した場合は、自律反発の公算が大きく、**短期の買い場**。

(売り局面)

- ⑤. 移動平均線が上昇の後、横バイか下降している時に、株価が平均線を下に割り込んだ場合、**必要な売り信号**。
- ⑥. 下降中の平均線を株価が上回っても、平均線の下落を食い止めえないのは、**戻り売り**。
- ⑦. 株価が下降する移動平均線の下であって、平均線に向かって上昇したものの、平均線を抜けずに再び下落する場合は、**売り乗せ**。
- ⑧. 平均線が上昇中でも、株価が異常にかけ離れて上昇した場合は、**反落の公算が大きい**。

移動平均線はトレンド系指標の基本で、「グランビルの8法則」は、バイブル的な存在となっています。マーケットに100%はありませんが、基本的な見方としては知っておきたい一つです。筆者は、株価のテクニカル分析は、移動平均線から始まると思っています。

(了)